



令和7年2月18日14時00分

近畿地方整備局

大規模土砂災害対策技術センター

紀伊山系砂防事務所

全自動 UAV 飛行でインフラ点検を効率化・省力化 ～ 可搬式 UAV 基地を用いた砂防施設点検の実証実験を行います ～

砂防施設は急峻な山地に位置していることが多く、これまで必要な時にその都度人が山奥に入って点検調査しており、施設までの移動に労力がかかることが課題でした。

その解決策として UAV を遠隔で自律飛行、充電、データ転送、格納できる基地(以下、UAV 基地)を現地に設置することで、一連の点検作業を全自動で実施することが可能となり、効率化に砂防施設点検や土砂災害箇所調査を行うことが期待されます。

今回の実験では、土砂災害が発生した緊急時を想定して、商用電源や携帯電話回線等の電力、通信インフラが無いような山奥で、太陽光パネルや衛星通信を組み合わせた可搬式の UAV 基地での遠隔点検を試行します。

1. 日時 令和7年3月4日(火) 13時15分から14時45分まで
2. 場所 谷出砂防堰堤群(三重県名張市安部田)
3. 取材について マスコミ関係者で取材を希望され、現場にお越しになれる方は、2月21日(金)15時までに別紙をご確認のうえ、電子メール(kkr-sankei-otayori@mlit.go.jp)でお申込みください。

【集合場所及び時間】

名張駅東口ロータリー 12時45分

※送迎車両の関係上、申込多数の場合は参加人数を調整させていただく場合がございますのであらかじめご了承ください。

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、五條市政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ

<問合せ先> 国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所

- ①業務全般に関する事 調査課長 岸本 優輝
②当日受付に関する事 総務課長 佐藤 一馬

電話0747-25-3111(代表) FAX0747-25-3110

取材を希望される方は、令和7年2月21日(金)15時までに電子メールにて事前申込みをお願いします。

紀伊山系砂防事務所 総務課宛 メールアドレス(kkr-sankei-otayori@mlit.go.jp)

■件名:実証実験見学会 取材申込書

■本文記載内容:

- ①報道機関名
- ②取材者名(ふりがな)
- ③連絡先(TEL)
- ④連絡先(メールアドレス)

【備考】

- ・取材は1名をお願いします。
- ・お手数ではございますが、電子メール、FAX 送信後、受信確認のため下記の確認先まで御連絡ください。

電子メール・FAX 送信確認先

0747-25-3111(代表)
紀伊山系砂防事務所総務課

○取材のご案内

1. 開催概要

取材時間	: 令和7年3月4日(火) 13:15~14:45
取材箇所	: 谷出砂防堰堤群(三重県名張市安部田)
集合場所	: 近鉄名張駅東口ロータリー付近(別図参照)
移動手段	: 官用車(国土交通省で用意)
中止時順延日	: 令和7年3月11日(火) 13:15~14:45

2. 当日スケジュール

12:45	: 近鉄名張駅東口に集合
12:55	: 近鉄名張駅東口を出発(送迎車で現地へ)
13:15	: 谷出砂防堰堤でドローン基地を用いた実証実験実施
14:45	: 実験終了(送迎車で名張駅へ)
15:00	: 近鉄名張駅にて解散

3. 取材申込方法

取材希望の方は、令和7年2月21日(金)15:00までに別紙をご確認の上、電子メール(kkr-sankei-otayori@mlit.go.jp)でお申込みください。(現地は道路が狭隘な地区のため、車両で直接お越しになることは、ご遠慮ください。)

また、送迎車両の関係上、申込多数の場合には参加人数を調整させていただく場合がございますのであらかじめご了承ください。

4. 取材についてお願い

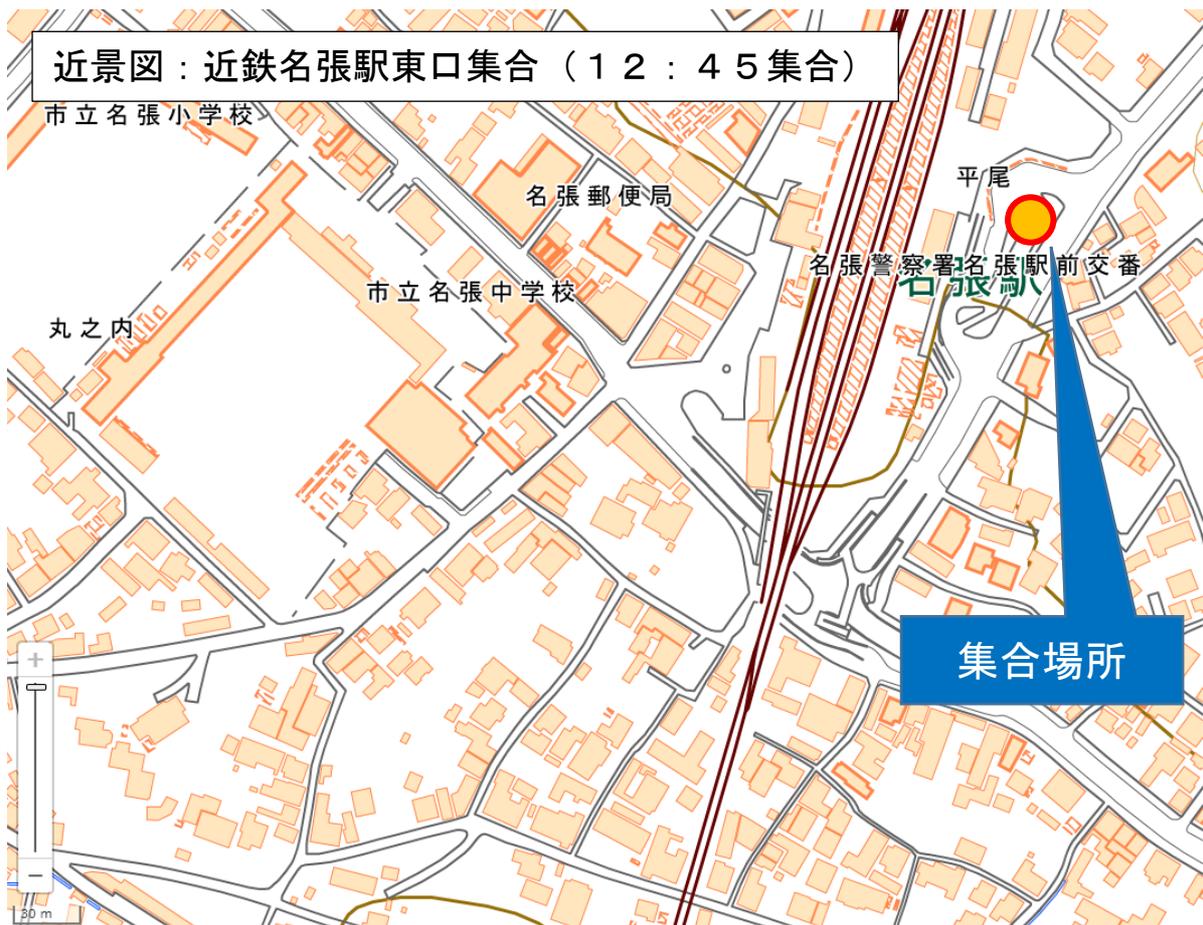
- ・集合時間は、名張駅12:45となります。時間厳守でお願いいたします。
- ・昼食等は各自でご用意ください。
- ・当日の天候や現地状況により、中止あるいは立ち入り制限がかかる場合があります。
- ・実施の判断については、前日の17:00までに紀伊山系砂防事務所のホームページに掲載いたします。

【紀伊山系砂防事務所】<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/>

- ・当日中止となった場合は、令和7年3月11日(火)に順延いたします。

○集合場所位置図

別図



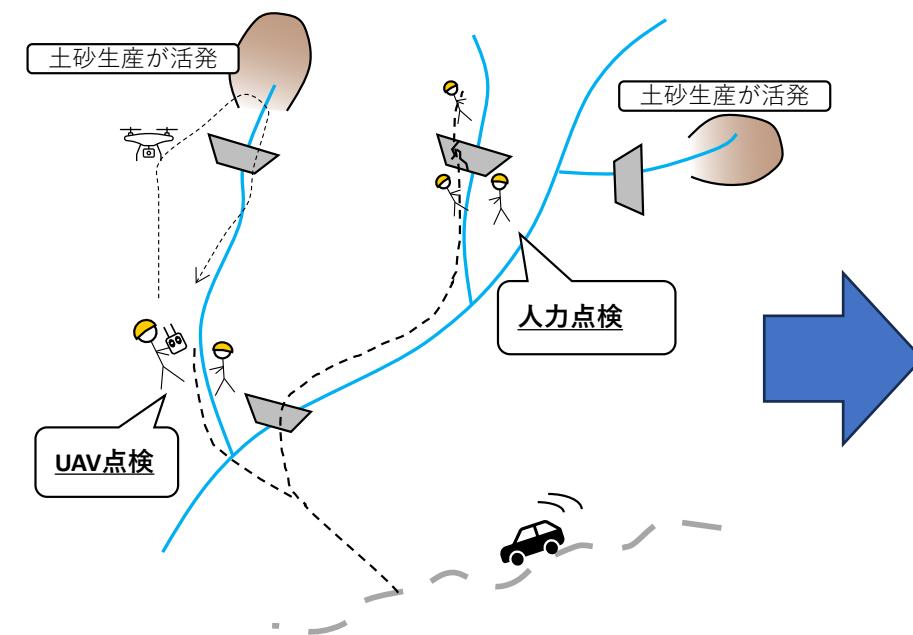
UAV基地を活用した完全自律飛行による遠隔砂防施設点検の実証実験

■紀伊山系の砂防施設は急峻な山奥にあり、下流の人家などが被災しないように土石流などの流下を防いでいます。それらの砂防施設が適切に機能するためには、平常時はもちろん豪雨や地震の後の点検・調査により、施設や流域の状態を把握することが重要です。

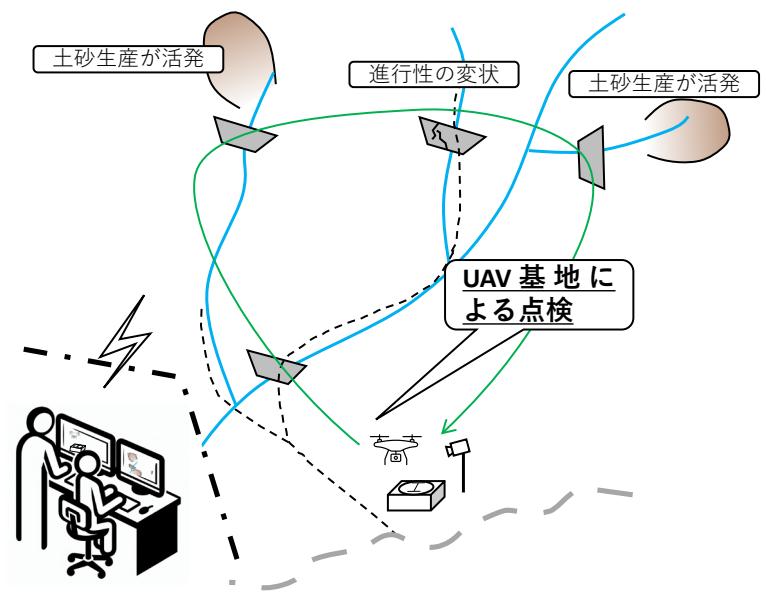
■これまで必要な時にその都度人が山奥に入って点検調査していましたが、UAVを遠隔で自律飛行、充電、データ伝送、格納できる基地（以下、UAV基地）を現地に設置しておくことで、安全かつ効率的に砂防施設点検、溪流調査を行うことが期待されます。

■今回の実験では、商用電源や携帯電話回線等の電力、通信インフラが無いような山奥で、太陽光パネルや衛星通信を組み合わせたUAV基地での遠隔点検を試行します。

■従来の砂防施設点検・溪流調査



■UAV基地を活用



UAVを活用することで効率性、安全性が向上するが、点検が必要な時にはその都度山奥に入って作業を行う。特に豪雨や地震の直後は危険を伴う。

UAV基地を設置することで、アクセスが困難な山奥に人が入らなくても必要な時に遠隔点検できるようになる。

図1 UAV基地を活用した砂防施設点検・溪流調査イメージ

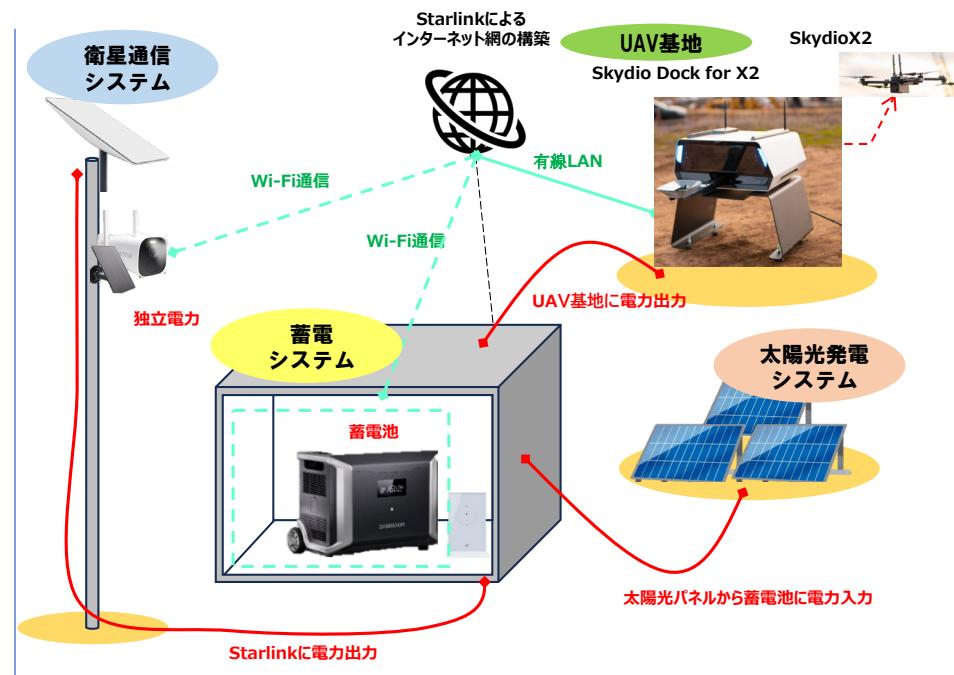


図2 実験機材構成の概要



図3 使用想定機材